

協力校としての取組

三条市立月岡小学校

1 これまでの研究の経緯

当校では、これまで「基礎・基本の定着を図る指導」「どの子にも基礎・基本の定着を図る授業の創造」「読みの力を高めるための指導の工夫～言語活動の充実を通して～」と、主に基礎・基本の定着に重点を置き研修を進めてきた。しかし、言語活動の充実を目指して取組を進めていくうちに、子どもたちの表現力に課題があることが分かってきた。

NRT学力検査を通して、「相手に伝わるように話す」「話題に沿って話し合う」「文の中心やつながりに注意して書く」ことの定着度の個人差が大きいことが明らかになった。

また、日々の実践を通して、「聞き手を意識した発表」にも職員が共通の課題意識をもっていることが明らかになった。

さらに、中学校区の知育・学力向上に向けた取組のテーマ「学習意欲を高める」、国語部会の重点指導内容「仲間と学び合う学習を通して、思考力や想像力を広げ、伝えたいことを的確に書くこと」を受け、研修の内容を「学習意欲」「表現力」に移行させることになった。

以上のことから、現在では「自ら関わりを求める姿」「表現力」の育成に着目した指導、授業改善を進めるため、「意欲的に学び 表現する子ども」をテーマに設定し実践を進めている。

2 取組の概要

(1) 教育活動・運営活動の柱

- ① 自分の考えをもって意欲的に学ぶことができる授業を推進するとともに、授業改善に向けた校内研修の充実を図る。
- ② 全校漢字力・計算力テストを定期的実施し、基礎学力の定着を図る。
- ③ 学力調査やWeb配信集計システムの結果を授業改善に生かす。
- ④ 家庭学習時間や取組の内容を点検する。
- ⑤ 小・中の授業研修会や交流授業を計画・実施する。

(2) 学習指導改善調査に関する直接的な取組

① 学習指導改善調査についての確認

1学期に、全職員で今年度の学習指導改善調査の実施について共通理解を図った。

② 結果処理について

結果を全職員で共有するために、夏季休業中に全職員で採点、入力、分析作業を行った。

③ 職員研修において、県平均を10%以上下回った設問を洗い出し、2学期以降の課題、

重 点とする単元を明らかにした。

3 平成 25 年度学習指導改善調査の分析

(1) 4 年

① 国語

- ・使われなかった取材メモを選ぶ問題で、書こうとする内容と取材メモが関係ないというところまで書き切れなかった解答が多い。
- ・大筋は分かっているが、説明が足りない解答が多い。
- ・資料を活用して書く問題では、紹介文から離れることができず、求められている取材メモの内容を書いていない解答が多い。

② 算数

- ・「まず」「次に」「だから」の言葉を使って説明することができた。
- ・0の処理ができず、8枚のカードを使って最も小さな数を作ることができない。一番上の位には0を立てることができないことの記述が足りない解答が多い。
- ・バスに乗らなかった理由を、時間を使って説明していない解答が多い。

③ 理科

- ・太陽と影の位置を推測する問題では、方位磁針の使い方と太陽の日周運動、太陽と影の位置関係の理解が足りない解答が多い。

(2) 5 年

① 国語

- ・資料の分析の仕方、着目すべきポイントの見極め方が確実に身に付いていない。
- ・自分の体験や予想を加えて説明したり、自分の考えを読み手を意識して分かりやすく書く力が身に付いていない。

② 算数

- ・解き方、解答を導くことはできるが、その説明を順序よくすることができない解答が多い。
- ・説明に必要な言葉を落とさずに書くことができず、不完全な解答が多い。

(3) 6 年

① 国語

- ・全体的に資料の言葉や文面を写しただけの作文が目立つ。自分の考えや知識、体験などを自分の言葉で書き入れることが不十分であった。
- ・構成を意識せずに、思うままに記述している解答が多い。

② 算数

- ・順序立てて説明する力が不足している。日々の学習の中で、数学的な考え方を自分の言葉で文章化する活動が足りなかった。
- ・算数というより、文章読解力に課題がある。算数と文章表現を結びつける活動が必要である。

(4) まとめ

以上のような分析を経て、今年度後半は、

- ① 資料をどう読み取り、どのように表現に生かしていくかという活用の仕方
 - ② 資料を生かしてまとまりや段落を意識した表現
- の2点について授業改善を図るべく取り組みを進めた。

5 授業改善の実際 別紙添付資料

6 成果と課題

今年度の取組から、以下のような成果と課題が明らかとなった。

- 自分の思いや考えを表現するに当たり、まずはその整理のために内容や項目ごとに付箋やカードにまとめる。次にそのカードを生かしながら、作文を書いていく。この付箋やカードを取捨選択しながら作文の構成を組み立てていく過程が、子どもたちの思考力及び表現力を育てることにつながった。
- 自分の考えをまとめたり、表現したいときに、「何を考えるのか」「どのように考えるのか」「どのように書き表せばよいのか」を課題提示の時に明確に与え、一斉の演習を行うことで、子どもたちは安心して思考・作業を進めることができる。
- 子どもたちを付箋やカードなど細かな作業に取り組ませた場合、その物の即時の見取りが重要となる。子どもたちの思考の結果、表現の材料となる物なので、視点のずれや曖昧さをチェックし、児童の思考及び表現が滞らないよう支援していく必要があるとともに、課題提示の際、児童に明確な視点を与えておくことも重要となる。
- 児童に考える内容、考え方を示し、その流れに沿って作業を進めればある程度の結果を得ることができる。しかし逆説的にとらえると、この流れの提示が子どもたちの思考の足かせになり、思考の広がりには限界を作る恐れもある。今後は指導者が引く路線を徐々に縮小し、子どもたちが自分たちで考えを広げていくことができるような方法を模索していく必要がある。

第2学年 国語科指導案 (実践1)

1 単元名・目標

しょうかい文を書こう 「友だちのこと、知りたいな」

- 友だちのよいところを見つけ、構成を考えて、友だちを紹介する文章を書くことができる。
- ・書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うことができる。
- 大事なことを聞き落とさないようにしながら、興味をもって聞くことができる。

2 指導計画

次	時間	学習活動	指導上の留意点
第1次	1	①「これはだれでしょうクイズ」をする。 ②「友だちのこと知りたいな」の題名を考えて、学習計画を決める。	①学級の児童の好きな遊びや食べ物を書いたカードを事前にとっておき、それをもとに「これはだれでしょうクイズ」をして意欲を高める。 ②友達のことでもっと知りたいことについて話し合い、「もっとして、紹介文を書こう」という学習課題を決める。
第2次	2 3 4 5 6 7	③「友だちのよいところを見つけましょう」を読み、友達を紹介するための観点を整理する。 ④紹介する友達のよいところを観点に沿って思い出し、取材メモに書き込む。 ⑤もっと知りたいことを考えて、友達にインタビューする。 ⑥教材文を読み、紹介文の構成を分析する。 ⑦取材メモを整理し、友達のよいところを紹介文にまとめる。(本時)	③「思い出しましょう」から、友達の言ったこと・見かけたこと・していること・してくれたことなどを、ワークシートに書き込ませる。その際に、よいところを見つけることを強調する。 ④尋ね方を練習させ大事なことを落とさないように興味をもって聞けるようにする。 ⑤作例の構成や工夫を整理し、書き方のポイントとする。 ⑥いちばん紹介したいことを考えて、題名を決めさせる。伝聞表現を適切に使って文章をまとめさせる。
第3次	8	⑧紹介文を読み合い、初めて分かった友達のよいところや書いてもらってうれしかったことを伝え合う。	⑦紹介文の書き方のポイントに沿って読み、よいところやうれしかったことを見つけて感想を伝え合う。

3 小中一貫教育との関連

本成寺中学校区小中一貫教育の目指す児童生徒像 「他と関わり合って追究し、自ら学ぶ子ども」

子どもたちが学級の中で自己有用感を高めるために、子ども同士でよさを認め合うことができる学習場面を大切に、ペア学習・小グループ学習(3～4人)を1日に1回以上は取り入れてきた。

本単元では、友達のよいところを見つけるために、紹介したい友達へインタビューする。(3・4/8)小グループの中で、1人に対して複数の子どもがインタビューする活動を取り入れることによって、インタビューした内容やインタビューのやり方についての学び合いを期待する。

また、紹介文を読み合い、初めて分かった友達のよいところや書いてもらってうれしかったことを伝え合う。(8/8)この学習活動により、友達から認められた喜びを実感したり、友達のよいところを見ようとする態度を育てたりすることができると思った。

4 本時(6/8)

(1) ねらい

- メモをもとにしながら、構成に注意して紹介文を書くことができる。

(2) 授業改善の視点

研究主題：「意欲的に学び表現する子の育成」とのかかわりから

- いつも一緒にいる友達を題材にする。
- 決まった文章構成を用いて表現をする。

学年部の研究主題：読み取ったことを表現する力を育てるための手だての工夫

教材文を読み取ることによって、紹介文の決まった文章構成を知る。その構成の中で、取材したことを取捨選択したり、感想を加えたりして文章表現する。

〈本時で期待する子どもの姿〉

- 友達のよいところがみんなに伝わるように、取材内容を取捨選択したり、順番を考えたりしようとする姿。
(書く内容や順序を整理して紹介文を「書く」=表現力)
- 友達のよいところがみんなに伝わるように、文章構成を確かめたり、自分の文を読み直したりして取り組む姿。
(紹介文を読み返して、推敲する=表現力)

〈本時で期待する子どもの姿に迫るための手立て〉

- ①並べ替えが可能なメモカードとワークシートの活用。
- ②文章構成や内容を確かめることができるチェックカードの活用

2年生では、「はじめ—中—終わり」や「まず、つぎに、さいごに」など文章の構成を考えて書く学習をしてきた。

本時は、教材文から読み取った紹介文の構成に、自分が集めた内容（取材メモ）を並べて友達を紹介文を完成させていく。決まった文章構成を用いることにより、自分が集めた内容（取材メモ）を吟味することに重点を置くことができるようになった。

友達のよいところがみんなに伝わるようにということを考えながら、自分が集めた内容を取捨選択したり、順序を考えたりすることができるように、並べかえが可能なメモを用意する。そのメモは、色分けをして、構成も意識できるようにする。（つなぎの文・友だちのよいところ・自分の思いのメモを色分けする）

また、友達のよいところがみんなに伝わるようにということを考えながら、書き終えた紹介文を読み返す。自分で推敲できるように、チェックする観点が書かれたチェックカードを用いる。前時の教材文を読み取った時に、このチェックカードも作成しておくことによって、読み取ったことが、表現する力（推敲）にもつながっていくと考えた。

(3) 展開 (本時 6 / 8)

	○学習活動 ・ 予想される児童の反応	◇教師の支援 ☆評価【方法】
5	<p>○本時の流れを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>友だちのよいところを文しょうに書きましょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 メモカードを並べよう。 2 作文用紙に紹介文を書こう。 3 チェックカードを使って見直そう。 </div> <p>ア 本時の流れがつかめない。 イ 本時の流れがつかめる。 ウ 紹介文を発表するところまで想像できる。</p>	<p>◇紹介文を書くことを話し、紹介される相手を喜ばせることを意識させる。</p> <p>◇ア 活動が始まる度に、確認する。 ◇イウ活動への意欲を発表させる。</p>
10	<p>○メモカードをワークシートに並べる。</p> <div style="border: 2px solid blue; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p>紹介される相手を喜ばせるような紹介文を作ろう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 紹介したいメモカードを選ぶ。 2 紹介したいメモカードの順番を考える。 3 自分の思いのメモカードを確認する。 </div> <p>ア カードを選んだり並べたりすることができない。 イ カードを選んだり並べたりすることができたが、紹介される相手を喜ばせる自信がない。 ウ メモカードを選んだり並べたりすることができた。早く問題文を書きたい。</p>	<p>◇紹介される相手を喜ばせるようなメモカードの数や並べ方を確かめて板書する。（掲示する。）</p> <p>◇ア カードの文を読みながら、順番を教えて、自分で並べさせる。 ◇イウメモカードの数や並べ方をペアで確認させる。相手に書いてほしいメモを尋ねる。</p> <p>☆ 紹介される相手を喜ばせるような紹介文にすることを考えながら、メモカードを選んだり並べたりすることができたか。 【ワークシート】</p>
20	<p>○作文用紙に紹介文を書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>文章構成や文末表現の確認をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 はじめ—中—終わり 2 つなぎの文を入れる。 3 「—そうです。」「—からです。」を使う。 4 題名を考える。 </div> <p>ア 視写に時間がかかったり、作文用紙の使い方が分からない。 イ メモカードを写し取ることに迷いがある。 ウ どんどん書き進める。</p>	<p>◇ノートに、はじめの文「クラスの友だち○○○さんをしょうかいします。」を視写させる。 ◇紹介文例（5 / 8の学習）を掲示する。</p> <p>◇ア 教師が書いたり、書いてある紙を貼る。 ◇イ 文例を見るように声かけをする。 ◇ウ 読み返し、文の付け加え、似顔絵を描かせる。</p> <p>☆ 並べたメモカードをもとに、紹介文を作ることができたか。 【作文用紙】</p>
10	<p>○チェックカードを使って紹介文を見直す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>チェック項目を確認する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 はじめ—中—終わり 2 つなぎの文を入れる。 3 「—そうです。」「—からです。」を使う。 </div> <p>ア チェックできない。 イ 推敲ができない。 ウ 自分の文章を確認し、推敲する。</p>	<p>◇教材文を使ってチェックカードの使い方を確認する。一斉指導</p> <p>◇ア 一緒に確認する。 ◇イ 教材文を参考にさせる。 ◇ウ 発表の練習・似顔絵描き</p> <p>☆ チェックカードを使って、紹介文を見直すことができたか。 【チェックカード・作文用紙】</p>

【授業を終えて】

1 授業の様子

①本時の流れを確認する。

○前時までの学習内容を確認する。

- ①友だちにインタビューをする。
- ②メモカードを作る。
- ③紹介文を書く。(本時)

前時までの学習とつながっていることを意識させた。



○本時の流れを確認する。

- ①カードを並べる。
- ③紹介文を書く。
- ④チェックをする。

見通しをもって学習することができた。

★本時でやることについて、分からない児童はいなかった。

②メモカードをワークシートに並べる。

○青・緑・黄・ピンクのメモカードを使う。



青：得意、好きなこと

例》 剣道が得意。
鉄棒が好き。

緑：知ってもらいたいこと

例》 引き出しチェックをやさしくしてくれたこと
自由帳にかけ算九九をいばい書いていること。

黄：つながりの言葉

例》 まだ、あります。
他にもあります。
さらに、あります。

ピンク：思ったこと

例》 今度、〇〇さんの剣道をしている姿を見たいです。
〇〇さんみたいに、やさしくしたいと思います。

拡大したワークシートにメモカードを貼りながら、説明をした。

この拡大メモカードには「はじめ・中・おわり」が明示されていた。



前時までの学習内容を教材文に沿って振り返った。

順番を考えながら、メモカードを貼り直した。

①2~4枚(青と緑)のカードを並べる。使わないカードは裏面に貼らせる。

②つながりのカード(黄)を間に入れる。*このカードには、つながりの言葉が書かれていない。

③おわりにピンクのカードを並べる。

★つながりのカード(黄)に文を書かせなかったために、理解が不十分で、黄色いカードを青・緑のメモカードの間に入れることができない児童が数人いた。個別に指導をしてから、作文を書かせた。

紹介文に書かないカードをワークシートの裏面に貼る指示を出したが、書かないカードを選択することは難しかった。

③作文用紙(野線)に紹介文を書く。

「はじめ・中・おわり」の文章構成を明示した作文用紙を使った。「はじめ」は「クラスの友だちの〇〇さんを紹介します。」「おわり」は思ったこと(ピンクのメモカードの内容)を書かせた。

今までの学習でも、「 」や語句を付けたす時には、作文用紙がマス目よりも野線の方が、次々に書き込む姿が見られた。そこで、本単元でも野線の作文用紙を使うことにした。

★メモカードの文を順番に書き写すことによって、問題文が完成していくようになっていたので、迷うことなく書き進める児童が多かった。



メモカードを見ながら、作文用紙に紹介文を書いた。

学期に1回程度メモカードを使って作文を書く学習をしてきた。

□ 話をしたところ 「 」からです。

□ わけをいうとき 「 」からです。

□ 聞いたこと 「 」からです。

□ はじめ・中・おわり 「 」からです。

□ だい 「 」からです。

チェックカード

④チェックカードを使って紹介文を見直す。

黒板に貼ったチェックカードを見ながら、1人1人が自分の書いた紹介文を見直した。(2回読み直す)

題もこの段階で決めさせた。

★学習活動が予定通りに進まず、短時間でのチェック活動になった。文末表現の推敲が難しかった。

まえまわりがとくいなこうへいさん

木山 めい

クラスの友だちこうへいさんをしようかいます。

こうへいさんは、まえまわりがとくいです。もっとうしろまわりをれんしゅうしてうまくなるそうです。

こうへいさんのとくいなところは、ほかにあります。こままわしがとくいではいくしよのときからやっついてとんどんできるようなったそうです。

こうへいさんのいいところは、まだほかにもあります。こうへいさんは友だちが「入れて」というと「いいよ」とかならずいっていました。

わたしもこうへいさんみたいにやさしい人になりたいです。

めいさんへ

マッطوانどうのことを書いてくれて、ありがとう。

紹介文を読み合い自分が書いてもらってうれしかったことや感想を、付箋に書いて交換した。

2 成果と課題

読み取ったことを表現する力を育てるために、単元を通して講じた手だてが有効であったかを考える。

手だて① 並べ替えが可能なメモカードとワークシートの活用

－教材文から読み取った表現方法と内容を使って、自分の紹介文を書くための手だて－

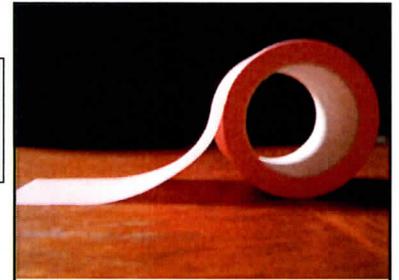
【成果】

メモカードの内容を色分けすることにより、つなぎの言葉「まだ、あります。」「他にもあります。」「さらに、あります」を紹介したい内容1つ1つの間に入れることができた。「緑・青のカードの間には必ず黄のカードを入れる。最後はピンクのカードを並べる。」という簡単な指示で書く順にカードを並べることができた。

ワークシートにも作文用紙にも「はじめ・中・おわり」が明記されていたので、メモカードを作文用紙にそのまま順に書き写していくことによって、紹介文が完成していった。作文が苦手な児童でも、文章構成を意識した紹介文を書くことができた。

【課題】

小さいメモカードに小さい文字で長い文が書かれているものが多かった。(今の段階では、ワークシートはA4版よりもB4版の用紙の方が適していた。)メモカードを作り、ワークシートに並べる作業にかなりの時間を費やしてしまうのが実際である。もしも、メモカードを作ったり、並べたりする学習活動が、作文を書く前に必ず行うことができれば、文章を構成する力や文章表現力は身に付いていくことは確かである。だから、もっと短時間でこの活動ができるように学習を積み重ねていく必要があると考える。自分が書きたいことを要約してメモカードに書く力を身に付けたり、いくつかの文章構成のパターンを習得したりする学習も取り入れていきたい。



メモカードに使用した付箋テープ。(コメリで購入)裏全面がのり付けされているので、簡単に剥がせるが、保管する際には剥がれにくい。

手だて② 文章構成や内容を確認することができるチェックカードの活用

－教材文から読み取った表現方法を使って、自分の紹介文を書くための手だて－

【成果】

自分が書いた作文をただ漠然と読み直すだけでは、推敲するところまではいかないことが多い。本時も文末を直した児童は多くはなかった。しかし、チェックカードを活用することにより、チェックカードの項目に注意しながら丁寧に声を出したり、指でなぞって読んだりする姿が見られた。

また、このチェックカードの項目は、教材文を読み取る段階で児童と一緒に作ったものなので、句読点・「」・マスの使い方のように作文のスキルだけでなく、文末表現や構成など表現方法も含んでいるものになっていた。もし、教材文の読み取りがなく、紹介文のチェックカードとして一方的に提示されるだけのものであったならば、友だちのよいところがみんなに伝わるようにという目的意識を最後まで持ち続けることはできなかったと思う。

【課題】

作文を書いた時に、自分で推敲する時間まで確保できるならば、表現力を確実に身に付けることができる。しかし、実際には、教師が赤字で児童の作文に直しを入れて完成させることもしばしばある。せめて、文章を書く1時間目には、教材文(よい文章例)を読み取り、チェックカードを作りたい。そして、このチェックカードをもとに、作文の目的意識を持って、自分が書いた作文を読み返したり、推敲したりする力を付けさせていきたい。

第6学年 国語科学習指導案（実践2）

1 単元名・目標

随筆を書こう「自分を見つめ直して」 ～卒業文集

◎考えたことから書くことを決め、書く事柄を収集し、全体を見通して書く事柄を整理することができる。

◎事実と感想・意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすることができる。

2 指導計画

次	時間	学習活動	○指導上の留意点◎評価基準と評価方法
第一次	1	・随筆について知る。	○体験したことや事実に、自分なりの考えや意見を書くことが大事であることを伝える。
	2	・「ふわふわの雪」を読み、事実と感想・意見を読み分ける。 ・文章表現の違いを検証する。	○事実と感想・意見を色分けすることで、区別できるようにする。 ○主語を詳しくする修飾語や意味が微妙に違う述語の表現を取り上げ、実際に短文を作る。 ◎正しい文章表現で短文を作ることができたか。(ノート・発表)
	3	・「電車の中の『わたし』」を読み、	○色分けをすることで、事実と感想・意見のバランスや配置に気付くことができる。
	4	事実と感想・意見を読み分ける。 ・秀でた文章表現を話し合う。	◎参考にしたい文章表現について話し合うことができたか。(発言・発表)
第二次	5	・卒業文集に載せる作文の題材を考える。	○前もって過去の卒業文集を並べておき、自由に読めるようにしておく。 ◎自分なりの考えで、作文の題材を考えることができたか。(作文メモ・発言)
	6	・下書きをする。	○作文メモから段落構成を考える。
	7		○下書きをワープロでやってもよい。
	8 9	・清書する。	◎事実と感想・意見などがバランスよく配置されているか。(下書き用紙)
	10		

3 小中一貫教育との関連～他と関わり合って追求し、自ら学ぶ子ども

発表などを通して全員で考える場面を設定する。自分と友達との考えの比較がより考えを深めさせ、自分の考えに自信をもって作文作りに取り組めると期待している。

4 本時(5 / 10)

(1)ねらい

○友達と題材を話し合う活動を通して、自分なりのトピックを考え作文メモに構想を書くことができる。

(2)授業改善の視点～研究主題『意欲的に学び 表現する子の育成』に関わって

◎ひとりひとりの発言の場を確保する

5年生の4月から毎朝一人一人の意見を求める時間を確保してきた。質問に対して自分なりの考えをもてる子どもたちである。しかも、全員が答える場面を作ることで、それぞれの発言に期待し、意欲をもって題材探しができるものと考えている。

◎自由に発言できる場面設定

児童の実態として、思い付きの発言が目立つ子どもたちである。特定の児童ではあるが、自由に話せる雰囲気作りに反応のいい子どもたちを活用していきたい。

◎表現の引き出しを広げておく教室環境

文末表現の多様性や事実と感想のバランスなど既習の文章表現にいつでも立ち返られる教室掲示を心がける。卒業文集を書く際の注意事項やうまくいくポイントなども伝えておくことで、創作意欲を沸き立たせると考える。

(3)展開

時	○学習活動 ・ 予想される児童の反応	◇教師の支援 ☆評価【方法】
10	○卒業文集のための作文メモを作ります。 テーマから考えます。今思い浮かぶ、卒業文集にふさわしいテーマを言います。 ・ 修学旅行・運動会・陸上大会・つくしフェスティバル・日々のこと・将来の夢…	◇マグネットで指名発表するが、思いつかないときは後に回し、全員発表を心がける。 ☆全員が何らかのテーマを発表できたか。【発表】
15	○テーマの中から自分にしか書けない自分にしか分からないトピックを考えます。それを作文メモのトピックの欄に書きます。	◇トピックの例示を上げる。 ◇友達と相談ができるようグループで机を寄せる。 ◇友達のトピックを聞くことで自分の方向性を決定する支援とする。 ☆自分の言葉でイメージマップにトピックを書けたか。【作文メモ】
15	書けた人から立ちます。(発表する) ○トピックをより効果的に作文にするための作文メモを作ります。もしくは起承転結の4つのコーナーを埋めます。	◇教師用のイメージマップを作る。
15	○作文メモを完成させます。	◇教師用の作文メモを作る。 ☆掲示物を見て、活動の見通しをもつことができたか。【様子、作文メモ】
5	○作文用紙を配ります。1080文字です。次の時間から書きます。	◇作文用紙を配ることで次時への期待を高める。

5. 考察

○子どもの言葉を用いる

本時では「テーマ」や「トピック」といった、ともすると普段何気なく使っている言葉を用いた。

「テーマ」については、毎朝の健康観察等で「お題」という形で自分の意見を求める時間を確保してあり、その活動とリンクして考えることができたように思う。

しかし、「トピック」について子どもたちの経験からイメージが持ちにくかったことで、不安と戸惑いが教室に充満したように思う。「トピック」は、「特別に心に残っている思い出」とらえて考えられるものと安易に使ったが、実際は子どもたちの活動にブレーキをかけた。具体的な場面として、作文の中心となる部分を「トピック」として書けることがねらいではあったが、テーマとトピックの違いを曖昧にしまい、作文メモ完成に至らなかった。

○全員発表は果たして必要であったか

協議会で参観者から、全員にテーマを発表させた時間のロスが響いて作文メモ完成までいけなかったのではないかという指摘を受けた。

ここで問題なのは、学習の到達点(ねらい)が作文メモの完成のように書かれているが、ねらいは「自分なりの構想が書ける」であって、決して完成ではないはずであったのだが、本時の展開の中に「完成」の文字が見えたことである。授業者の構想不足、練りの甘さがうかがえる。授業者としては、子どもたちが一人一人が卒業作文に対しての不安を払拭し、先の見通しがもてることを本時のねらいとしたかったのだが、そういった点を「作文メモ完成」と表記してしまった。

研究主題でもある「意欲的に学び、表現する」力をつけるためには、実際に声を出す場面が重要と考えている。同じ内容であってもいい。1 回声を出すと、その場に自分がいること、学習に参加しているという自覚が生まれる。自分の声で自分の考えや自分の選択を発表する場面を作ること、自分から進んで発表することが苦手な子も、同じ土俵に立てると考えている。

したがって、導入で全員が発表する場面は、研究主題に則って考えたときにどうしても割愛できない活動だったのである。

○その後

子どもたちはそれぞれの作文メモを頼りに、全員が原稿用紙 2 枚半から 3 枚程度の卒業作文を書き上げた。

子どもたちの作文の 8 割方が「はじめ・なか 1・なか 2・まとめ」形式であった。これは、5 年生の時から同じ作文メモで 400 字程度の作文練習を続けてきた成果と思われる。子どもの学習は、継続により積み重なるのだと確信した。

しかも、「誰でも書ける事実だけ作文」からの脱却が見られたことはうれしく感じた。頑張ったんだと素直に思うことができた。自分なりの感覚、自分なりの考え、自分なりの捉えを自分の言葉で書けていた作文は、卒業アルバムに掲載するにふさわしい「自分だけの作文」となったと思う。